

S. L. C 試験制度の改革

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

ネパールの近代教育が始まったのは1942年である。ネパールでの教育制度はイギリスが当時植民地にしていたインドに導入したシステムとほぼ同じであった。この制度は下記比較表の通り、日本との違いがわかる。

日本				
小学校	中学校	高校	大学	
6年	3年	3年	4年	
ネパール				
小学校	中学校	高校	短大	大学
5年	3年	2年	2年	3~4年

ネパールは未だに義務教育制度はない。そのため、特に農村部や山間部で学校の整備が遅れている。またそれらの地域では住民の教育への意識も低い。古くからの習慣や階級（カースト）制度の影響が色濃く残っていて、女子の教育参加への機会が奪われている。経済的理由も大きい。農業への依存度が高い地域では教育よりも農作業が優先される。

今までの教育制度では進級に関わる大きな問題があった。毎学年末の試験に合格しなければ進級できない。小学校から中学校へ、中学校から高校へ進学する際も郡統一試験の合格が不可欠である。高校卒業時には最難関試験の全国高等学校統一試験 School Leaving Certificate (S. L. C) 別名、鉄の門 (アイソゲート) が待っている。毎年の平均合格率は約40~50%である。大学進学にはその後さらに短大

(10+2)に進まなければならない。高校卒業資格を得られる生徒は、小学校入学時の約1/3である。毎年SLC結果発表後の自殺者は後を絶たない。

今まで教育制度に関し全然改定がなかったわけではないが、今回の改定ほど大きなものはなかった。今年から教育省はSLC試験制度を大きく変えた。合否はなく結果だけを残す制度（グレード方式）となった。今まではA~C等級だけが合格となり、不合格者は毎年の再受験に臨むか、卒業資格が得られないままだった。今回の改定により試験を受ければ全員高校を卒業したことになる。しかし結果としての評価は一度の試験で決まってしまう、進路に大きな影響を持つ。再試験は認められない。グレード方式は以下の通りである。N級の無評価になる場合にはいろいろな理由があるが、このグレードだけは次の年に再試験を受けられる。

獲得点数(%)	等級	評価	グレード
90以上	A+	最優秀	4.0
80~89	A	優秀	3.6
70~79	B+	最良	3.2
60~69	B	良	2.8
50~59	C+	平均以上	2.4
40~49	C	平均	2.0
20~39	D	平均以下	1.6
1~19	E	不十分	0.8
0	N	無評価	0

将来的に短大2年が高校に組み込まれるのに伴い、SLC試験の受験タイミングは2年遅れとなる。高校卒業時であることに変わりはない。